

日・独・露の研究協力によるマルクス『資本論』の  
歴史的-批判的編集

2005年11月21-24日

同志社琵琶湖リトリートセンター

(<http://www.doshisha.ac.jp/sotsugvo/shisetsu/retreat/#top>)



21. 11 2005

16:00-17:00 到着

17:00-18:00 1) 自己紹介、会議説明

2) 新MEGAの編集現況と展望について(マンフレート・ノイハウス)

I 新MEGA 第II部門の編集および研究成果

9:00-12:00 第1部 司会 マンフレート・ノイハウス

1. 大村泉 (東北大学教授) + ロルフ・ヘッカー (BBAW 研究員) : 新MEGA 第II部門第12, 13巻の基本構想
2. 久保誠二郎 (東北大学科研費研究員) : 『資本論』第2部編集原稿、初版および再版の相違について
3. 八柳良次郎 (静岡大学教授) : エンゲルスとダニエリソンとの往復書簡によせて

Kaffeepause

4. 大谷禎之助 (法政大学名誉教授) : エンゲルスは彼が編集した『資本論』第2部でどのようなマルクス草稿を用いたのか?
5. リュドミーラ・ヴァーシナ (RGASPI, 研究員) : 1868-1881年におけるマルクスの『資本論』第2部作業のクロノロジー

\*質疑

13:30-17:00 第2部 司会 : ロルフ・ヘッカー

6. 柴田信也 (東北大学名誉教授) : 流通費をめぐる理論的諸問題
7. 早坂啓造 (岩手大学名誉教授) : 「流通および再生産過程の現実的諸条件」か「社会的総資本の再生産および流通」か? : マルクスおよびエンゲルスの『資本論』第2巻第3篇構成比較の問題性
8. 大野節夫 (同志社大学教授) : マルクスの草稿VIIIで何が生じたのか—商品の再生産資本の再生産か—

Kaffeepause

9. ミハエル・クレトケ (Universität Amsterdam) : マルクスの経済表とエンゲルス編集
10. 守健二 (東北大学教授) 『資本論』における流通および再生産論の分析的含意 : 独日学説史の対比

\*質疑

23. 11. 2005

9:00-12:00 第3部 司会 : 守健二

11. 宮川彰 (首都大学東京教授) : 第二次大戦以前の日本における『資本論』再生産論の影響および普及史によせて

12. 柴方国 (中共中央編訳局教授) 中国における『資本論』および新MEGA研究

Kaffeepause

13. ベルトラム・シェフォールト (Goethe-Universität, Frankfurt am Main) : 価値形態論および『資本論』全巻に関する価値の価格化問題の意義

14. カール-エーリヒ・フォルグラーフ (BBAW 研究員) エンゲルスの資本主義象と『資本論』第3巻に対するその内容的な補正

\*質疑

13:30-17:00 第4部 司会：リュウドミーラ・ヴァーシナ

## II Marx-Engels-Jahrbuch 2003 版『ドイツ・イデオロギー』をめぐって

15. 渋谷正 (鹿児島大学教授) : Marx-Engels-Jahrbuch 2003. での『ドイツ・イデオロギー』の再現によせて  
— 日本人読者の観点から

16. 鄭文吉 (高麗大学教授) : 文献学的分析と完成版 : 『ドイツ・イデオロギー』「第1章フォイエールバッハ」  
試行版 (Marx-Engels-Jahrbuch 2003) の外観と批判

Kaffeepause

## III 19-20 世紀における『共産党宣言』の影響および普及史

17. マルチェロ・ムスト (University of Nice “Sophia Antipolis” 研究員) 1889-1946 年のイタリアにお  
ける『共産党宣言』の影響および普及史によせて

18. ヴァレーリー・フォミチョフ (RGASPI 研究員) : RGASPI が所蔵する貴重な『共産党宣言』コレクション  
\*質疑

24. 11. 2005

9:00-12:00 第5部 ヴォルフ-ハーゲン・クラウト

19. 橋本直樹 (鹿児島大学教授) 日本における『共産党宣言』の影響および普及史

20. 蔣仁祥 (中共中央編訳局教授) 中国における『共産党宣言』の影響および普及史

## IV マルクス/エンゲルス遺文庫オリジナル文書の画像デジタル化

窪俊一 (東北大学助教授) + 赤間道夫 (愛媛大学教授) : 『資本論』第1部ドイツ語再版(1872-1873年)および  
フランス語版(1872-1875年)マルクス手沢本のデジタル化

レギーナ・ロート (BBAW 研究員) : デジタルマルクス/エンゲルス — 『資本論』研究の新局面

\*質疑

主催

1) 日本 MEGA 編集委員会・仙台グループ (科研費基盤研究 (A)・「IT 活用による『資本論』第2部成立過程の全容解明  
と関連刊本・草稿のデータベース化」(課題番号 15203009) 研究プロジェクト、代表：大村泉 (東北大学) + 科研費  
基盤研究 (B)・『共産党宣言』を中心とするマルクス主義文献の普及過程の解明とデータベース化」(課題番号：17320  
019) 研究プロジェクト、代表：窪俊一 (東北大学)

2) 東北大学大学院経済学研究科『資本論』研究プロジェクト

3) 日本マルクス・エンゲルス研究者の会

BBAW: ベルリン=ブランデンブルク科学アカデミー、RGASPI: ロシア国立社会=政治史アルヒーフ

後援

国際交流基金(The Japan Foundation)

趣旨

本年 11 月、いよいよ日本人研究者が中心になって編集した新 MEGA の巻=新 MEGA 第 II 部門 (『資本論』お  
よび準備労作) 第 12 巻 (『資本論』第 2 部エンゲルス編集原稿(1884-1885 年)収録) が刊行される。これは  
前世紀最初の四半期以来、80 年余の歴史を持つ新旧 MEGA の歴史で最初の出来事である。これを記念して国  
際マルクス/エンゲルス財団 (本部：アムステルダム社会史国際研究所) 事務局長、マンフレート・ノイハウス  
教授以下 14 名の海外の研究者を招いて国際新 MEGA コロキウムを開催する。同財団は 1990 年以来旧ソ連、  
旧東独のマルクス=レーニン主義研究所に代わって新 MEGA の編集・刊行に責任を負っている。

本コロキウムでは、(1)新 MEGA 第 II 部門の編集および研究成果および(2)マルクス/エンゲルス文書のデジタ  
ル化をメインテーマに、進んでは(3)Marx-Engels-Jahrbuch 2003 版『ドイツ・イデオロギー』の編集、(4)19-20  
世紀における『共産党宣言』の影響および普及史について、日・独・露・中・伊・韓の専門家が立ち入った研  
究成果を報告・討議する。コロキウムの核心部分は連続して東京で開催される新 MEGA 国際シンポジウムで  
一般に紹介される。本コロキウムの公用語はドイツ語。質疑には通訳が付く。

本コロキウムは「日本におけるドイツ・2005-2006 年」の公式行事である。

問い合わせ先： 大野節夫 [sono@mail.doshisha.ac.jp](mailto:sono@mail.doshisha.ac.jp) 大村泉 [omura@econ.tohoku.ac.jp](mailto:omura@econ.tohoku.ac.jp)

窪 俊一 [skubo@media.is.tohoku.ac.jp](mailto:skubo@media.is.tohoku.ac.jp)      宮川彰 [miyakawa@bcomp.metro-u.ac.jp](mailto:miyakawa@bcomp.metro-u.ac.jp)